

フィールド風

(現場)からの風

高田守男

なごも華美な。金沢まで延伸した北陸新幹線の影響を知りたくて4月下旬、新潟県長岡市を訪ねる。新幹線新駅の直接影響が顕著に出ない、利用者が主に車で訪れる場所だ。目指すは、国営公園越後丘陵公園だ。カーナビゲーションは、所要時間が3時間30分、だが実際の所要時間は、2時間30分ほどだった。特に白馬、糸魚川市までの所要時間が実際より長時間必要と表示してしまふ事が気になる。初めて訪れるお客様に、大北地域の取り組みに救しさを感じた関係者も多かった。

滞している言葉遣いが原因なのだろうか。道路改良の早期実現を期待してしまふ。訪れた時は「チューリップまつり」の開催中だった。スタッフに尋ねると今年で17年目の開催との説明。チューリップは富山のイメージが強かった私だが、147品種20万本が花の丘一面に咲く風景は素晴らしい心を和ませる。健康センター1200坪、里山フー

「お母は、寺泊」魚の「アメ横」で暮らす、一軒の食卓だ。昼食の間間帯だが、あまりのお客様が少なさに驚く。家族が注文した海鮮丼、新鮮さに欠け、見た目もおおしくはないように見えてしまふ。最近魚を目的としたお客様が少ないようだ。原因はと尋ねると、「小声で、アメ横の一軒の商店が、長野な

域の高齢化と人口減の影響を肌で感じるイベントでもめる。青森の地区内行進の乗組は、機軸の吹き手が少なくなり、今年から小学生の乗隊に。お神酒を振る舞いながらの行進だが、玄關先で待つ住民は減少を続けている。翌日の基幹センター広場の祭の参加者も、子どもの数の減少が顕著なのか、寂しさは拍車をかける。しかし、仕事や結婚を機

に地域を離れた関係者が、お祭りに参加。お祭りを「やかにする。粗ごに会食するやり方」を考え直しては、との声が聞こえる。組織が減少した組を心配する声は、これからの地域を心配する気持ちの表れなのだろう。

今年は何れい出来事もあった。久しぶりに集落に加入した若手夫婦。なかなか地域の住民組織に入らないう現状

が多い中、早速地域の若手の組織に参加し、祭りでも大活躍、消防団にも加入。早く地域になじみたい若者、それを温かく見守る住民。若者にとって充実した、楽しい日常生活を営んでほしいと思う。

4月1日現在の、長野県内の総人口が、毎月人口変動調査の数値を基に発表された。総人口に占める65歳以上の割合で示される高齢化率は過去最高を更新。県内の市では、大町市が35.0%の県内の市では最高数値、白馬村を除く大北地域の市町村でも30%を超え

日常見聞きする現実について、お互い話し合う事に関心を持ってみませんか

天候の安定したゴールデンウィークは、全国各地の観光地やイベントに大勢が集い、活気ある情報が発信された。しかし、大北地域の取り組みに救しさを感じた関係者も多かった。

「ルドミーシアム180坪の広大なエリアには、13万株の雪割草群生地や1000万株の方タクリ大群生、2200株のクリスマスローズ花壇など見どころも多い。」

しかし、会場スタッフに詳細を訪ねても、「そのエリアの事は全く知らない」と言われた人がメインではなく、地域住民が集うことを目的に運営していると感じてしまふ。近くにある柏崎原子力発電所の地元民への対応も念頭にあるのだろうか。多額の経費で運営して

「毎年5月4日、5日は、私が住む森上地区の春祭りだ。だが、地

域の高齢化と人口減の影響を肌で感じるイベントでもめる。青森の地区内行進の乗組は、機軸の吹き手が少なくなり、今年から小学生の乗隊に。お神酒を振る舞いながらの行進だが、玄關先で待つ住民は減少を続けている。翌日の基幹センター広場の祭の参加者も、子どもの数の減少が顕著なのか、寂しさは拍車をかける。しかし、仕事や結婚を機

に地域を離れた関係者が、お祭りに参加。お祭りを「やかにする。粗ごに会食するやり方」を考え直しては、との声が聞こえる。組織が減少した組を心配する声は、これからの地域を心配する気持ちの表れなのだろう。

今年は何れい出来事もあった。久しぶりに集落に加入した若手夫婦。なかなか地域の住民組織に入らないう現状

が多い中、早速地域の若手の組織に参加し、祭りでも大活躍、消防団にも加入。早く地域になじみたい若者、それを温かく見守る住民。若者にとって充実した、楽しい日常生活を営んでほしいと思う。



地域の絆を強くしようとする地区内行進が地域を支える

「ルドミーシアム180坪の広大なエリアには、13万株の雪割草群生地や1000万株の方タクリ大群生、2200株のクリスマスローズ花壇など見どころも多い。」

しかし、会場スタッフに詳細を訪ねても、「そのエリアの事は全く知らない」と言われた人がメインではなく、地域住民が集うことを目的に運営していると感じてしまふ。近くにある柏崎原子力発電所の地元民への対応も念頭にあるのだろうか。多額の経費で運営して

「毎年5月4日、5日は、私が住む森上地区の春祭りだ。だが、地

域の高齢化と人口減の影響を肌で感じるイベントでもめる。青森の地区内行進の乗組は、機軸の吹き手が少なくなり、今年から小学生の乗隊に。お神酒を振る舞いながらの行進だが、玄關先で待つ住民は減少を続けている。翌日の基幹センター広場の祭の参加者も、子どもの数の減少が顕著なのか、寂しさは拍車をかける。しかし、仕事や結婚を機

に地域を離れた関係者が、お祭りに参加。お祭りを「やかにする。粗ごに会食するやり方」を考え直しては、との声が聞こえる。組織が減少した組を心配する声は、これからの地域を心配する気持ちの表れなのだろう。

今年は何れい出来事もあった。久しぶりに集落に加入した若手夫婦。なかなか地域の住民組織に入らないう現状

が多い中、早速地域の若手の組織に参加し、祭りでも大活躍、消防団にも加入。早く地域になじみたい若者、それを温かく見守る住民。若者にとって充実した、楽しい日常生活を営んでほしいと思う。